

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

エリザベト音楽大学（音楽学部：音楽文化学科・演奏学科）は、建学の精神及び教育理念に基づく学位プログラムを構築し、学則第1条に定める「カトリシズムの精神に基づいて教育を施し、広く知識を授けるとともに、深く音楽芸術に関する理論及び技能を教授研究し、良識ある音楽家を育成すること」を教育目的としています。さらに「音楽をとおして私が変わり 世界を良くする人になる」という行動標語を策定しました。

エリザベト音楽大学は、次に掲げる資質・能力（学修目標）を修得し、卒業要件を満たした者に学位「学士（音楽）」を授与します。

A 幅広い教養

A-1 キリスト教（精神）及び恒久平和について学び、多様な文化・倫理観について理解し、「他者のために、他者とともに生きる」精神を身につける。

A-2 教養教育に積極的に取り組み、音楽（教育）の専門教育の学修及び卒業後の社会生活に活用することができる。

B 音楽（教育）の専門性

B-1 音楽（教育）を専門的に学修するための基盤となる音楽基礎力を修得し、実践的に活用することができる。

〔音楽文化学科〕

音楽文化専修

- ・音楽の基礎的かつ多角的な知識（理論及び歴史）を身につけ、その意味を主体的に考えることができる。
- ・音楽の関連知識（文化・芸術・社会・教育・人間科学など）とその実践的方法論を理解し、研究活動における基礎を構築することができる。

幼児音楽教育専修

- ・幼児音楽教育の基盤となる音楽的能力と音楽的感性を身につけ、保育の実践に生かすことができる。

〔演奏学科〕

声楽専攻 鍵盤楽器専攻 管弦打楽器専攻

- ・音楽の基礎的かつ多角的な知識（理論及び歴史）を身につけ、演奏活動における基礎を構築することができる。

B-2 音楽（教育）の高度な専門知識・技能を修得し、学内外においてその成果を表現することができる。

[音楽文化学科]

音楽文化専修・創作プログラム

作曲

- ・各時代の作曲技法を修得し、体系的に活用することができる。
- ・自らの抱く音楽のイメージを追い求め、作品として表現することができる。

デジタル鍵盤楽器

- ・多様なジャンルの音楽に精通し、様式に沿った演奏をすることができる。
- ・作曲・編曲の技術を身につけ、自作自演をすることができる。

音楽文化専修・研究プログラム

- ・音楽文化研究に必要な専門的知識を修得し、課題発見力、調査分析力、発想力を身につけている。
- ・独自の視点を持って研究を行い、論理的に示すことができる。

音楽文化専修・総合プログラム

- ・音楽文化に関連する学際的知識及び技能を修得し、課題発見力、調査分析力、発想力、企画提案力を身につけている。
- ・倫理観をもって実践的に活動することができる。

幼児音楽教育専修

- ・豊かな音楽的知識と高い演奏技術をもとに、質の高い保育を実践することができる。

[演奏学科]

声楽専攻 鍵盤楽器専攻 管弦打楽器専攻

演奏プログラム

- ・音楽の歴史を体系的に理解し、作品の様式に沿った奏法や表現法を修得している。
- ・様々な観点から作品を深く理解し、作曲家の意図を表現することができる。

指導プログラム

- ・音楽の指導に必要な専門知識・技能を身につけると同時に、先端技術を生かすことができる。
- ・幅広い年齢や能力に応じた指導を行うことができる。

総合プログラム

- ・音楽の学びをとおして身につけた専門知識・技能を活用し、協調性や創造性をもって社会の変化に柔軟に対応することができる。

C 協働による社会貢献

C-1 地域社会、国際社会の一員として自らの役割を認識し、使命感をもって様々な音楽（教育）活動、地球環境の保全及び持続可能な社会の建設に取り組むことができる。

C-2 幅広い教養及び音楽（教育）の専門知識を基にして、自ら課題を見出し、他者とのコミュニケーションを図り、協働により問題解決にあたることができる。

アドミッション・ポリシー（入学受入れの方針）

エリザベト音楽大学は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材の育成を行うために、建学の精神及び教育理念の理解に加え、学修に必要な次の資質・能力を身につけている人を受け入れます。

〔音楽学部〕

- ・ 高等学校までの教育課程を幅広く修得している。
- ・ 実用英語技能検定準2級程度（同等の他のテストの成績を含む）の英語能力がある。
- ・ 音楽（教育）に関する経験、興味及び強い関心を持ち、入学後も主体的に他者と連携して音楽（教育）活動に取り組むことができる。
- ・ 音楽（教育）に必要な情報機器を利活用する基礎能力がある。
- ・ 専修・専攻の求める音楽（教育）の基礎知識及び能力を身につけている。

〔音楽文化学科〕

音楽文化専修

- ・ 音楽創作を行う際に必要な基礎的理論及び作曲技法などを、根気強く学修するとともに、独創的な創作活動に取り組む意欲がある。
- ・ デジタル鍵盤楽器に必要な演奏技術と、自作品の創作や編曲に必要な理論を積極的に学ぶ意欲がある。
- ・ 音楽とそれを取り巻く様々な活動・現象を研究対象と捉え、教育学、分析学、史学、作品研究、宗教音楽などを実践するために必要な知識を修得する意欲がある。
- ・ 音楽の社会的役割に興味を持ち、社会における活用を目指して、幅広い学びに取り組む意欲がある。

幼児音楽教育専修

- ・ 幼児音楽教育に対して深い関心があり、保育について自ら学ぼうとする主体性と、他者と協力して学び合う協調性を持っている。

- ・ 自らの音楽的感覚と技術を保育に活かし、音楽と保育をとおして社会に貢献しようとする意欲がある。

〔演奏学科〕

声楽専攻

- ・ 学修を始めるために必要な声楽の演奏技術を身につけている。
- ・ 積極的に演奏技術を身につけ、将来、様々な分野で声楽家、合唱指導者、教育者、舞台アーティストとして活躍することを目指して学ぶ意欲がある。

鍵盤楽器専攻

- ・ 学修を始めるために必要な鍵盤楽器の演奏技術を身につけている。
- ・ 鍵盤楽器の音楽に強い関心を持ち、演奏技術・表現力の向上に務めるとともに、幅広い音楽の知識を身につけ、将来、演奏及び教育の面において社会に貢献することを目指して学ぶ意欲がある。

管弦打楽器専攻

- ・ 学修を始めるために必要な専攻楽器の演奏技術を身につけている。
- ・ 将来、ソロ・吹奏楽・オーケストラの演奏者、指導者、教育者として社会で活躍していくことを目指し、より高度な知識や演奏技術を積極的に学ぶ意欲がある。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

エリザベト音楽大学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力などを修得するために、下記の方針でカリキュラムを編成しています。

〔音楽学部〕

教養科目

- ・ 少人数による演習科目あるいはマンツーマンの実技指導をとおして、イエズス会教育の特徴である「一人ひとりを大切にする教育（cura personalis）」を実践します。
- ・ イエズス会教育理念及び建学の精神にしたがい、キリスト教及び哲学など、音楽（教育）の関連諸科学について幅広く学修可能な科目を設置します。
- ・ 大学における学びの基礎として、複合的内容による初年次演習を必修とし、主体的かつ対話的な学修方法を提供します。
- ・ 国際的に活躍可能な人材育成を行うために、英語を必修にするとともに、その他の外国語についても1年次より履修が可能です。
- ・ キャリア教育に関する科目（必修含む）を複数設置し、卒業後の進路について積極的に思考する環境を整えています。

専門科目

- ・ 建学の精神に基づき、宗教音楽を基盤とする学修を実践するために、「宗教音楽」（グレゴリオ聖歌研究）を必修とし、西洋音楽の源泉を体得する機会を提供します。
- ・ 専門教育の基礎科目として、「音楽史」「音楽理論」「ソルフェージュ」「音楽家の耳トレーニング」「和声学」「対位法」「楽曲分析」「合唱指揮法」「吹奏楽指揮法」他を設置します。
- ・ 研究内容及び進路を見据えた履修プログラムによる履修を可能にするために、両学科の専修・専攻毎に、専門科目群を体系的に位置付けています。

〔音楽文化学科〕

音楽文化専修

創作プログラム

- ・ オリジナルな音楽を自由に創れるようになることを目標に、1年次から「作曲」や「専修実技」の中で専門性を修得するとともに、音楽の基礎諸理論を総合的に学びます。
- ・ 2年次からは、「上級和声」「管弦楽法」「対位法」「DTM 上級」などの専門的な音楽創作の書法を修得し、作品創作・発表の実践を重ねていきます。
- ・ 4年次には、学びの集大成として、卒業作品や卒業演奏に取り組みます。

研究・総合プログラム

- ・ 1年次には、各種「概論」の履修とおして、総合的な基礎知識と研究の素養を養うとともに、「音楽リサーチ」によって研究の各種方法論を身につけます。
- ・ 2年次には、専門科目の段階的履修により、各領域の学びを進め、知識の高度化を図ります。また「音楽文化基礎演習」に参加し、演習・実習のための基礎を学びます。
- ・ 3年次からは、ゼミ形式の演習・指導をとおして、個々の研究を深めていきます。文献研究、調査、制作実践やフィールド・ワークも含め、4年次の「卒業研究・制作」へと繋げていきます。

幼児音楽教育専修

- ・ 幼児教育に関する理論的な学修と、幼児の音楽活動に関する実技及び様々な楽器の専門的な演奏技術など、技能面から学生を指導し、学びをサポートします。
- ・ 1年次には、「幼児教育原理」及び幼稚園の領域に関する基礎理論をとおして、保育の基盤となる知識を身につけます。また「幼児音楽教育学Ⅰ」などの演習科目によって、幼児音楽教育の基礎的知識・技能を養います。
- ・ 2・3年次には、保育内容の指導法に関する科目をとおして、保育現場において活用可能な専門知識・技能の修得を図ります。また「幼児音楽（ピアノ・うた）基礎技能」「幼児と身体表現」を履修し、幼児に対する音楽指導法を身につけます。3年次になると「幼稚園教育実習Ⅰ」において保育技術の基礎を学び、「幼児教育の方法と技術」をとおして各領域の理論と指導法を総合的に活用する力を養います。
- ・ 4年次には、「幼稚園教育実習Ⅱ」をとおして保育技術を高めます。また「幼児音楽教育特殊研究Ⅱ」をとおしてコミュニケーション能力や音楽表現力を高めるとともに、「幼児音楽卒業演習」をとおして幼児と音楽教育に対する知見を広げ、理論的思考力を育成します。

〔演奏学科〕

声楽専攻

- ・ 1年次・2年次には、「専攻実技」において専門知識・技能の修得を図るとともに、「声楽基礎技法」によって基礎的かつ多角的な知識を身につけます。
- ・ 3年次には、「学内演奏」を履修し、日頃の研究成果を発表します。
- ・ 4年次には、学びの集大成として、総合的な演奏能力の修得を目指します。

演奏プログラム

- ・ 「オペラ実習」をとおして、舞台芸術の学修を多角的に深めるとともに、他者とのコミュニケーション能力を養います。

- ・ 「ミュージック・ライティング」を履修し、曲目解説やプログラムノートの書き方を身につけ、卒業後の演奏活動に必要なスキルを身につけます。
- ・ 「声楽特別レッスン」においては、演奏家としての技能及び演奏解釈を修得します。

指導プログラム

- ・ 「第九合唱」を2回履修し、音楽の歴史、作品の様式に沿った奏法や表現法及び作曲家の意図を深く追求する力を養い、演奏者・指導者としてのスキルを身につけます。
- ・ 「合唱指導法」、「即興演習」を履修し、合唱指導に必要な専門知識・技能及び幅広い年齢や能力に応じた指導法を身につけます。

総合プログラム

- ・ 広範にわたる科目を履修し、自らの力量及び卒業後の進路などに合わせた学びのプログラムを構築します。

鍵盤楽器（ピアノ）専攻

- ・ 1年次には、「ピアノ作品研究」「ピアノ構造学」、演奏時の身体の使い方を研究する「演奏科学」を履修し、「専攻実技」に必要な基礎的知識及び技能を身につけます。
- ・ 2年次には、「伴奏法」「ピアノ指導法基礎」「楽曲分析」を必修とし、専攻実技の関連分野における基礎知識及び技能を修得します。
- ・ 3年次には、「学内演奏」を履修し、日頃の研究成果を発表します。
- ・ 4年次には、学修の成果として、総合的な演奏能力の修得を目指します。

演奏プログラム

- ・ 「ピアノ特別レッスン」を必修とし、「伴奏法」や「室内楽」の履修を通して奏法や表現方法の高度な研究を行います。

指導プログラム

- ・ 「ピアノ指導法実践」と「音楽と身体表現（リトミック）」、音楽教室講師の資格取得を目指す「指導グレード研究」を履修し、指導者としての理念や実践力を修得します。

総合プログラム

- ・ ピアノの奏法および知識に関わる必修科目を中心に広範にわたる科目を履修し、様々な目標に沿った研究を行います。

鍵盤楽器（オルガン/チェンバロ）専攻

- ・ 1年次には、「専攻実技」に加え、楽器構造学や演奏解釈研究などを学びます。
- ・ 2年次には、演奏に必要不可欠な「即興演奏」と「通奏低音」を履修します。
- ・ 3年次には、「学内演奏」を履修し、日頃の研究成果を発表します。
- ・ 4年次には、学びの集大成として、総合的な演奏能力の修得を目指します。

演奏プログラム

- ・ 演奏家に必要な即興の技術を高めるために、即興演奏の応用的技術を修得します。

指導プログラム

- ・ 指導者に求められる幅広い知識を深めるために、「合唱指導法」と「ピアノ指導法基礎」を履修します。

総合プログラム

- ・ 広範にわたる科目を履修し、自らの力量及び卒業後の進路などに合わせた学びのプログラムを構築します。

管弦打楽器専攻

- ・ 「専攻実技」の履修により、専門知識・技能の修得を図り、基礎的かつ多角的な知識を身につけます。その際、音楽理論、ソルフェージュ、音楽家の耳トレーニングなどの基礎科目を生かした学修を進めます。
- ・ 「オーケストラ」あるいは「吹奏楽」を4年間継続して履修し、演奏活動における基礎を構築する能力を養います。
- ・ 2年次以降は、「室内楽」を履修し、実技レッスンにおいて獲得した能力を土台とし、コミュニケーション能力を高めます。また合奏系の授業では、個々の演奏技術の向上とともに、合奏授業準備の時間を自ら管理することにより、自己管理能力を身につけます。
- ・ 3年次には、「学内演奏」を履修し、日頃の研究成果を発表します。
- ・ 4年次には、学びの集大成として、総合的な演奏能力の修得を目指し、その成果を発表します。

演奏プログラム

- ・ 2年次に「演奏科学」を必修とし、自身の体と内面に耳を傾け、効率的な体の使い方を学びます。また、国内外の著名な演奏家によるマスタークラスなどを受講し、技術力と表現力を深めます。

指導プログラム

- ・ 「吹奏楽指導法」「マーチング指導法」「吹奏楽指揮法」などを履修することにより、幅広い年齢や能力に応じた指導を行うことができる力を養います。

総合プログラム

- ・ 広範にわたる科目を履修し、自らの力量及び卒業後の進路などに合わせた学びのプログラムを構築します。